

国立大学法人帯広畜産大学の平成26年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

帯広畜産大学は「食を支え、暮らしを守る」人材の育成を通じて、地域及び国際社会に貢献することをミッションに掲げ、地球規模課題の解決を視野に入れた農業分野の専門知識・技術の教育研究を通して、国際性のある人材の育成を目指している。第2期中期目標期間においては、獣医・農畜産融合の視点から、幅広い見識と国際性を有し、実践力のある人材の育成等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、新設した「動物・食品検査診断センター」において動物の健康、食品の安全に関する検体検査等を学内外の要請に応じて実施する検査診断部門を新設するとともに、食と動物に係る世界の諸課題の解決に貢献することを目的とする組織「グローバルアグロメディシン研究センター」を平成27年4月に設置することとしているなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

(戦略的・意欲的な計画の状況)

第2期中期目標期間において、次のような戦略的・意欲的な計画を定めて、積極的に取り組んでいる。

- 他大学との連携により国際的通用性を備えた獣医師養成のための獣医学教育の充実を図ることを目指した計画を定めており、平成26年度においては、国立獣医系4大学群（北海道大学、帯広畜産大学、山口大学、鹿児島大学）による獣医学教育の国際認証取得に向け、有識者による事前診断を実施し、指摘事項を踏まえたカリキュラム改善に着手しているほか、国立獣医学系大学連携教育システム（GLEXA）において、4大学それぞれの地域性や特色を生かした教育コンテンツを4大学の学生が自学自習できるように配信している。
- 新たに「グローバルアグロメディシン研究センター」を設置し、コーネル大学等から研究者を招へいして国際共同研究を推進するなどの取組を通じて、獣医・農畜産分野において、国際通用性を備えつつ即戦力となる人材を育成するとともに、国際共同研究を推進する計画（平成26年度に中期計画を変更）を定めており、平成26年度においては、米国ウィスコンシン大学と学術交流協定を締結するとともに、平成27年度から招へいする外国人教員の人選等を決定している。また、獣医・農畜産融合の国際共同研究を推進し、食と動物に係る世界の諸課題の解決に貢献することを目的とする組織「グローバルアグロメディシン研究センター」を平成27年4月に設置することとしている。

(機能強化に向けた取組状況)

「地域連携推進センター」のインキュベーションオフィスに入居している企業と連携し、「資源循環型養豚に関する実習」、「バレイショ品種とポテトチップスの製品品質に関する実習」等を実施しているほか、地域連携推進センター内に「食品安全マネジメントシステム推進室」を設置し、専門家1名を特任教授として採用するとともに、大学院畜産学研究科で実施予定の「食品安全マネジメント教育プログラム」の具体的なカリキュラムを検討するなど、企業等社会のニーズに即した共同研究・人材育成を推進している。また、教員の業績評価に基づく年俸制を推進し、平成26年度対象者125名の教員のうち101名（80.8%）が平成27年2月より年俸制に移行している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**特筆**される。

○ 学長のリーダーシップによる大学マネジメント改革の推進

学長のリーダーシップによる資源配分を充実するために学長裁量経費を平成 31 年度までに運営費交付金対象支出予算の 25 %以上（平成 27 年度は 5.4 %）とすることを決定するとともに、年俸制適用教員給与規程の制定及び新たな業績評価制度の導入等により、平成 26 年度対象者 125 名の教員のうち 101 名（80.8 %）が平成 27 年 2 月より年俸制に移行するなど、大学マネジメント改革を推進しており、評価できる。

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 明確な学長の意思反映のための体制構築

学長を本部長とする「教育推進本部」、「研究推進本部」、「国際化推進本部」を設置し、大学院の改組計画、研究戦略等を検討するなど、教学に関する重要事項を検討する際に企画段階から学長の意思を明確に反映させているほか、大学の IR（Institutional Research）機能を強化するため、大学の業務に係る情報の収集及び分析管理を行う組織として、「大学情報分析室」を平成 27 年 4 月に設置することを決定している。

【評定】 中期計画の達成に向けて**特筆すべき進捗状況**にある

(理由) 年度計画の記載 11 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成 25 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われているほか、対象者 125 名の教員のうち 101 名（80.8 %）が年俸制に移行するなど大学マネジメント改革の推進を行っていること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 共通機器の有効活用の推進

「共通機器サポート推進室」において、学外者に対する共通機器の利用料金を設定し、共同研究先に機器リストをウェブサイト上で公開すること等により、学外者がよ

り利用しやすい体制を構築するとともに、機器の効率的な運用管理を進めるべく、各教員から研究機器の提供を受け共通機器室で共同利用する「リユース・リサイクル制度」を導入している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 12 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(①評価の充実、②情報公開や情報発信等の推進)

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 4 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守)

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 公的研究費の徹底的な不正使用防止策の実施

公的研究費の不正使用を未然に防ぐため、研修会の受講と誓約書の提出について事務系職員及び非常勤職員を加えて全教職員に義務付け、全員が受講・提出している。また、納品された換金性の高い物品について、取得金額に関係なくすべてシステム登録、備品シールの貼付及び写真の撮影等を行うとともに、特殊な役務契約について実行性のある検収を行うため、契約案件に応じた専門的な知識・技術を有する者に検査職員を委任し確実な履行確認を行うこととしている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 10 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

II. 教育研究等の質の向上の状況

平成 26 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

○ 国際水準の教育研究体制の整備

動物・食品の安全衛生に関する国際水準の教育研究を推進するため、「動物・食品衛

生研究センター」を「動物・食品検査診断センター」に改組し、国際的な安全衛生基準の環境下において動物の健康、食品の安全に関する検体検査等を学内外の要請に応じて実施する検査診断部門を新設している。

○ 企業等との連携の充実

「地域連携推進センター」のインキュベーションオフィスに入居する企業5社間と交流会を開催し、各社の共同研究の内容、大学への要望等が紹介されることで新たな共同研究につなげているほか、共同研究成果を学生が主体となって商品開発から販売まで行う新たな取組を開始するなど、学生への実践的教育効果も生まれている。

○ 国際科学技術協力の推進

モンゴル及び世界の家畜原虫病対策と畜産振興に貢献するため、地球規模課題対応国際科学技術協力プログラム（SATREPS）「モンゴルにおける家畜原虫病の疫学調査と社会実装可能な診断法の開発」において、モンゴル国内で流行するトリパノソーマ病、ピロプラズマ病及びその媒介マダニの全国的な疫学調査を実施するとともに、モンゴル国内におけるトリパノソーマ病簡易迅速診断キットの2年以内の実用化を目指した評価試験及び認証手続きに関する調査に着手している。

○ 世界トップレベル大学等との国際共同研究の推進

コーネル大学及びウィスコンシン大学（米国）と帯広畜産大学の教員が結集して獣医・農畜産融合の国際共同研究を推進し、食と動物に係る世界の諸課題の解決に貢献することを目的とする組織「グローバルアグロメディシン研究センター」を平成27年4月に設置することとしている。

○ 熱帯熱マラリアの新たな治療薬の開発につながる研究の推進

原虫病研究センターでは、熱帯地域を中心に世界中で深刻な健康危害をもたらしている熱帯熱マラリアの病原体である熱帯熱マラリア原虫の増殖阻害薬候補物質「硫酸化ジェラン」の開発に世界で初めて成功しており、熱帯熱マラリアの新たな治療薬の開発につながることを期待されている。